

2020年2月13日

於：枚方市立平野小学校

一、芦田教式とは

故芦田恵之助先生が創始された国語の授業方法。教材研究の方法です。いわゆる「七変化(しちへんか)の教式」です。芦田先生の御授業は茫洋として継承するのが難しかったものですから、それを凡人にも実践できるように単純化していただいたのが、故鈴木佑治先生です。「いずみ会」では鈴木先生の単純化を継承して実践しています。「国語科指導の単純形態」としてまとめられています。(表一、表二を参照のこと)

二、いずみ会は 昭和二十三年に芦田恵之助先生の正風を後世に伝えようと鈴木佑治先生が始められた会です。

第一期(昭和23年)～昭和42年)

鈴木佑治先生のご指導を受けながら長期休業中に授業の会を開いてきました。

第二期(昭和43年)～平成23年)

初代宇都宮新会長さんから山本忠壮会長、助松太三会長、米澤徳一会長、恵津森悦郎会長と引き継ぎ
初代米澤徳一先生、2代笠原昭司先生、3代安達孝之介先生を指導部長として会を続けてきました。

第三期(平成24年)～)

指導部長が空席になりましたが、夏季休業中に授業の会を開いています。
平成25年度は、第131回の大会を開きました。
平成25年7月22日～24日の3日間で計12時間の授業を行いました。
大会の授業記録を筆録として残しています。

三、「国語科指導の単純形態」第一表

第二次指導(全科の概観)

- 一、よむ 何が書いてあるか考えながら 順
- 二、よむ 番読み 読後感の話し合い
- 三、よむ 事
- 四、かく 指黙読 指斉読 五年以上は順
- 五、よむ 指黙読 指斉読 五年以上は順
- 六、とく 文に即して 事の中に意をおおわ
- 七、よむ せる 事の中に意を見出させる
- 指斉 今日の勉強を考えながら 指斉

第三次指導(重要なところを)

- 一、よむ 前のことを考えながら 順 番読み
- 二、とく 事を通して意をつかむ 道筋
- 三、よむ
- 四、かく 意

- 五、よむ 指黙読 指斉読 五年以上は順
- 六、とく 番読み 文に即して 意をとっぷり理會させる
- 七、よむ せる 今日の勉強を考えながら 指斉

第三次指導(形式の取扱い)

- 一、よむ 前のことを考えながら 順 番読み
- 二、とく 真意をしみじみ味わう
- 三、よむ 言
- 四、かく 指黙読 指斉読 五年以上は順
- 五、よむ 番読み
- 六、とく 文に即して 言の中に意を見出させる
- 七、よむ 意がどんな言で表現されているか 今日
- 指斉 今日

四、第二表

五、中心をつかむ
中心を中心にして流れを作る
教材は温めて
教材研究ノート

六、指導力をつけるために
年に一度ぐらい研究授業をする
誰かに自分の授業を見てもらう。
見てくれる人がいなければ、校長先生に見てもらう。
板書三年鞭八年
板書の練習

七、学習意欲を高める

- ①褒めて育てる
×結果を褒める(ワークシート学習は、これをやっている)
- しようとしたところを褒める
- ②高学年は皆の前で褒めない、叱らない。全体を褒める。叱る
やっかみが始まる
皆の前で叱ると、先生に、恥をかかせられたと思うようになる。(効果なし)
- ×怒る(先生の感情で怒る)
- ×しかる(知的に叱る)
- △注意する
次に褒める為に注意する、しかる
- 褒める
- ◎認める

③子どもをよく見ていると、「ここを褒めて欲しい。認めて欲しい」と発信してくることがある、そこをすかさず褒める。

八、自習ノート

「見ましたハンコ」(点検して欲しいという要望で)